青藍会グループ広報誌

Heart News

医療
第292号
2023.12

第８回　医療DX塾開催

11/25（土）に第８回 医療DX塾 青藍会視察・見学会が開催されました。日本各地から36名の方が参加され、ハートホーム山口、ウェルネスセンター中央、ハートホーム新山口での医療・介護のDXについて見学されました。

INDEX

P2～5　対談：「治す」をチームで支える
P6　おうちdeリハビリ
P7　青藍会グループ　医師紹介
P8　外来・訪問診療医師予定表

101st SEIRANKAI GROUP SINCE 1922
子育てサポートしています 2013年認定事業主
青藍会在宅医療支援センター
ハートコール 0120(2)81056
セイランカイ 青藍会
(受付)8:30～18:00(日･祝･GW･お盆･年末年始などの所定の定休日を除く)
青藍会公式サイト
青藍会Facebook

対談 「治す」をチームで支える ②在宅ケア

今回は、ハートクリニック南山口 副院長の立石医師をお迎えして、あんの循環器内科 院長兼青藍会グループ医療統括 亀田医師とファシリテーターの看護部長を交え、『在宅ケア』をテーマに対談を行いました。

――立石先生は着任されて半年ですが、率直に青藍会のイメージはいかがですか？

立石：毎朝行われる情報共有会議は、ものすごく良いものだなと思います。朝礼は時代遅れみたいに言われますが、業務の連絡事項をグループ全体で１日の始めに昨日の報告と今日何をやるかというのを報告して全体を統制して必ずやるというのは、僕はすごく良いことだと思います。実際に参加してみて、すごくシステマチックにやっているなと、今感じています。

看護部長：いかに短時間に情報共有するかということに力を入れているのですが、亀田院長は情報共有会議をどのように活用されていますか？

亀田：情報共有としてはすごく良い場だと思います。そこに医師や他のスタッフからの意見やコメント的なものがもっと出ればもっとよくなると思います。教育的な部分が一番できる場かなとも思うので、それが一番改善していくべき点ですね。副代表から情報共有会議はこのまま続けていくのがいいかどうか相談を受けたことがあるけど、僕は続けた方が良いと言いました。理由はスタッフが色々な情報をあげてくるときの情報の上げ方、それからそれを通してスタッフがどういう理解をしているのか分かるから。そしたら医師側ももっと提言すればコメディカルの教育になるのかなと思います。

看護部長：教育の場にしていくということですが、どのようにしますか？

立石：気づいたときには連絡するようにしています。また、時間外や土日は主治医として指示が出せないので、オンコールドクターにもきちんと伝わりやすいように資料の情報、診断の情報、青藍会でいうACP（アドバンス・ケア・プランニング）はしっかり伝えるようにはしています。

看護部長：情報共有会議の話になりましたが、情報共有会議を始めた目的が、情報共有は勿論ですが、先程亀田院長が言われたOJT教育を兼ねています。

亀田：気付いたときに、ワンポイントで良いと思う。

看護部長：医療用語を読み間違えていた時にそこを指摘するだけで介護の人たちはハッと思うことがあるので、ワンポイントレッスン等は積極的に先生方から発言していただけたらと思います。情報共有会議を始めて医療の質、医療者と介護者が分け隔てなく話ができるようにはなってきたので、是非ご発言いただいて、情報共有会議の質をもっともっと上げていただいたらと思います。

――立石先生が来られて心臓リハビリをされるにあたり勉強会も開催していますが、心臓リハビリに対して意気込みを聞かせてください。

立石：心臓リハビリテーションはリハビリテーションの中でも最近の概念です。リハビリテーション学会自体ができたのが確か1960年代で、運動器や脳卒中、脳疾患リハビリは当初からありますが、どちらかと言うと表面に見えるハンディの運動器の異常が注目されがちでしたが、昨今では内部障害が注目されていて、むしろ高齢者の場合はそれが中心です。病態を理解し、個々の利用者さん・患者さんの環境・能力に応じた社会復帰、機能最適化というのを心臓リハビリテーションを通じて、どの疾患のリハビリテーションでも同じというのを伝えていきたいですね。基幹病院に居たときには、心臓の患者さんとの全人的ケアを考えれば良かったのですが、回復病棟もしくは診療所、今で言えば訪問診療となると心臓だけの人はむしろ珍しいので、携わってみると結局同じことをやれば良いというのをみんなに伝えたい

です。心臓リハビリテーションって何ですか？とよく聞かれるので、実は患者さんや利用者さんに対するアプローチは他の脳血管リハビリテーションと運動器リハビリテーションと結局考え方は同じであることをみんなに伝えていきたいと思っています。

看護部長：心臓リハビリというだけで特別なものという感覚はありますが、これからは上手に高齢者にも取り入れてやっていく必要があるということですね。亀田院長、何か心臓リハや立石先生が取り組まれることに対しての期待感は？

亀田：脳卒中を主に診てきて、青藍会では運動器のリハも診てきたけれど、基礎疾患にいかに心機能のレベル差が大きいか、これが高齢者の訪問をしていると多いんですよ。そういう立場から見たら運動器でも脳卒中でもリハ科の対象疾患としてやっていることであって、廃用もそうだけど、心疾患がある患者だったら、その心疾患に対するリハを一緒に進めていかないとその患者のリハはスムーズにはいかないのではと思っています。

――青藍会に赴任されて訪問診療を積極的にしていただいていますが、訪問診療に行って気をつけておられる点や思いについてお聞かせください。

立石：訪問診療は、基本のコンセプトに青藍会の理念「私たちは、医療・保健・福祉の分野で、地域の方々の生活を生涯にわたって支えることに最善を尽くし、そして、そこで働いていることに誇りをもちます」にあるように、その場所でできる限りのことをやるというのが重要なところかなと思っています。そのためには、最初に入居するときはもちろんですが、この患者さんは医学的にみて何が問題でこういう状況になっているかというのを理解するところから始まり、起こりうるものを予測しながら診療にあたることを僕は重要視しているので、この患者さんはこういう病気で、疾患の背景、家庭環境などがあって、今後こういう病気になりやすく、こういうときだったらどういうふうにする、というのをシミュレートして、それをACPのときに患者さんはもちろん、ご家族にそれをしっかり伝えるとすごく安心されます。できること・できないことというのはやはりあるので、はっきりさせておくことで患者さんもご家族も安心されます。通常の病院治療よりどうしてもできないことの方が訪問診療ではあります。だから在宅で診ている限りで僕はこの人に何ができる、で、こうなった場合僕はお手上げだというラインを作って、そのお手上げのときにどうしたいですかというのを聞くようにしていますね。そうすると、そんなふうに話していただいたのは初めてですねと結構良い反応をもらえます。だから入居の病状説明の際には良いかんじでアドバンスケアプランニングできているのではと思っています。

看護部長：亀田院長も訪問診療していただいて、困難事例にもかなりあたっていただいていますが。

亀田：困難事例のところが多いですが、その中で色々考えながら実際に訪問診療でどこまでできるのか確かめているというか、自分にできる内容で訪問診療でどこまでこの患者を診れるのかというのをトライ＆トライでやって、できる範囲のレベルというのを少し構築してみようかなと。それが分かれば患者さんに「ここまではできますよ」と自信を持って言える。患者さんは基本的には訪問診療を受けるということは、いわゆる急性期の病院に送れという状態ではないと思います。患者の思いと家族の思いが違う場合があって、その場合は仕方ないですが、できれば患者の思いに沿ってあげられたら、訪問診療でできる部分も意外とあると思うんです。骨折したらもう仕方ないけど。全身管理という意味だったら、ものすごく長い目で見ることがかなりあるんじゃないかな。

――訪問診療を続けていく中で、青藍会にも課題があると思いますが、課題として挙げるならばどのようなことを今後取り組む必要があると思われますか？

立石：僕が大学病院、市中病院、バイトでよく感じていたのは、全く生活が見えないんです。有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅から来られている方が病院に来ると、お連れの方が家族であれば、「普段どうですか？」と聞いても「私は先日こけたくらいしか知りません」と。で、「普段血圧とかどうされていますか」と聞くと「どうしてるんですかね」と。今度は施設のヘルパーさんがやって来ました。「普段どんなかんじですか」と聞くと、「私は連れて来ただけで・・・」というかんじで。医療と介護が致命的に分断されているなというのが、僕が過去の病院勤務のときの印象だったんです。さっきの情報共有会議のこともありますが、青藍会ではその分断は少ないと僕は肌で感じています。介護の対象になる原因は基本的に病気でなるので、この病気がどういうものがあるかというのは忘れないでほしいというのが課題ですね。介護の方もそうですが、特に医療・看護にあたっている方々も、リハビリテーションのことと同じですが、この患者さんはこういう病

気でこういう臨床経過を辿っていき、標準的な介入はこうすべきだというポイントですね。転倒・転落も確かに大事ですが、転倒・転落を防ぐ方法は実は逆なんですよ。例えば一昔前だと転倒・転落する可能性のある人はじっとさせておくよう言われていました。でも、じっとさせておくことによって廃用が進んでいくので、じっとさせないことの方がむしろ大事になる。認知機能やせん妄など色々問題はあると思いますが、そういうのを理解して、動ける人はしっかり動く。それはやはり病態をみながらやっていければ良いと思っています。それが課題というか目標です。

――今青藍会の1100人の職員の1/2が介護職員ですが、疾患を知るのは意外とハードルが高いです。介護の人が疾患を知ることに対してアドバイスはありますか？

立石：簡単な資料を作って、勉強会を繰り返してやるくらいしかないのかな・・・

亀田：１つの方法は現実に介護側がこれが知りたいというものに対して短時間でワンポイント的に説明する。それともう１つは、DXを本当に使うんだったら医療と介護を医師側はもう両方見れるけれど、施設側も医療が見えて、そこから介護側が質問をくれれば現実的に質問に対して答えられるので印象が強くなるかな。今、医療でもまだ介護側が良く見えない状態で、恐らく介護側から見ても医療の部分がもう一つ見えないんじゃないか。だからDXのポイントはそこだと思うんですよ。

看護部長：垣根を取り除くということですよね。

亀田：電子カルテって言うけど、大きな病院側から見たら、そこに介護はないんですよ。青藍会は医療と介護両方あるんです。IDが統一されているのが利点なので、これをどういうふうにお互いに見れるようにしていくか。それが本当の情報共有になる。そのとき分からないことがあればワンポイントで質問してくれてそれに対して簡単に答えが返せればより理解が深まるんじゃないかな。これが一つの青藍会のDXの目指すところかなと。

看護部長：支店長は介護の人が多いのですが、なかなか支店長や介護の現場から医療側に質問はしづらいようで、その辺りを積極的に先ずは取り組んでもらうことですね。

亀田：スマホを使ってどういうふうに情報を問い合わせてくれるか、問い合わせやすさを求めるのもDXの在り方かなと。その辺りがもう少ししっかりすれば、疾患に対してもより極小的な知識かもしれないけれど、それが増えていけば、一つの形の知識になるんじゃないかな。

――ハートクリニック南山口の事務長に、今立石先生が一番取り組まれていることは多職種協働だと聞きましたが。

立石：そうですね。一つには自分の仕事をいかに効率よく幅広く多くをやりたいというのがあって、もう一つは、自分の働いているところが良い職場であってほしい、みんなが一つの目標に向かってそれぞれのできることをやってほしいという。さっきと矛盾した言い方になりますが、医師が病気のことを中心に考えることは大事ですが、例えば理学療法士が病気のことだけを考え続けるというのは、僕は時間の無駄だと思っています。そのポイントを自分で学ぶか、その情報は医師に聞きまくる。そうすると指示待ちになってしまうのかな？でも能動的にやるために情報をたくさん仕入れる。医師数に限りがあるので、他職種の人がこの方の病気はこんなんだよねというのを考えながらやっているような気がしますが、僕は病気の情報だけは、医師がコントロールしないとダメだと思うんです。その診断に基づく治療方針、そこから派生して各専門職の技術が見せられる。そのスタートは僕は医師でないとまだダメなのかなと思います。それがトレーニングされると、いろんな人が横方向で情報共有できるようになると思いますが、今のところはまだ他職種は「こういう病気はこういうものだ」というのを理解するところから始まるのかなと思っているので、僕はそれを伝えたりカルテに書いたりしていますね。僕もはっきり言ってリハビリのことはわからないから、この患者さんはこういうふうにやって欲しい、だけどこれをどのようにしていくかはあなたたちの仕事だと言うんです。これは勿論看護師さんにも言えることで、今まで必ず言っていたのが、看護師さんは病気のことを考える職業ではないからねと。どうしても病気のことを考えがちですけど、看護師さんがするのは病気に対する看護を考えることなので。だからむしろリハビリテーションとかACPとかをやる際に、その治療方針に対する患者とか家族のケア、カウンセリングも含めてやるのが看護師さんの仕事かなと僕は思っています。この辺をどの専門職がどのように自分たちの腕を振るうかというのを引っ張りあげていきたい。一人歩きを許している訳ではない。一人歩きではなく情報共有しながら、状態把握しながら

みんなで、その専門職の良いところを伸ばしていきたいといつも考えています。

看護部長：今のお話を聞く限りでは、亀田院長も同じような感じのニュアンスでよくお話しされると思いますが、いかがですか？

亀田：立石先生の言う通りです。そういうレベルに達するまでまだまだ時間かかると思うので、それは看護師さんがご自分で学んで考えて色々提言してくれるのは、それは僕は協力していますが、本当に看護師は看護だけを考える段階に至るまではまだまだ受け入れていくしかないのかなと。

看護部長：どのように取り組むと良いと思われますか？

亀田：広く浅くやってもらったらいいのでは。突っ込んでそれぞれの専門にまで入り込んでくると、やはり異論が出てしまうので、治療方針のところに関わってくる。でも広く浅くだと、逆に僕らが気がつかない部分に対してコメディカルの目線で示してくれる。これは大病院は別にして、クリニックや中小規模の病院だったら有用なんじゃないかなと僕は思います。

――青藍会は「住み慣れたところで最期まで過ごす・暮らす」ことを目指しています。その観点で医師としてできることをお話いただけたらと思います。

立石：ACPの話の時に自分ができることとできないことをはっきりさせて、時間が許される限り本人・ご家族と話をしながら、希望を満たしていけたらなと思っています。もう１つは、がんのリハビリテーションをハートクリニック南山口で導入したいと思っています。悪性腫瘍の方に系統的にアプローチするのはもちろん、緩和ケアも積極的に進めていきたいと思っています。訪問診療、クリニック、有床診療所でできることを増やす努力をしないといけないと思います。診療できる範囲内で自分のできることは、僕は循環器だから循環器で終了ではなく、自分の長所であるものを伸ばしかつ利用者さん・患者さんに最大限に寄与できるものを探していきたいです。今までは心臓だけやっていればという感覚が少なからずあったのですが、今目の前にいる利用者さん・患者さんのニーズは、心臓だけでなく色々なものを求めておられるので、その中でできることを増やしていきたい。今、やることが多岐にわたっています。医療だけでなく介護もしっかり理解していないといけないし。治療するだけでいい訳ではないので、どれくらい医学的にサポートできるかというのを学んで、還元できたらなと思っています。

看護部長：青藍会がこれからしてかないといけないことだと思いますね。

――最後にひと言お願いします。

立石：僕は心臓リハビリテーションを2016年くらいからやっていますが、心臓リハビリテーションの普及率は心臓疾患の中でも７％くらいで全然普及していないんですよ。何故かというと診療報酬の問題が１番で、あとはアクセスの問題。僕は情報共有会議を見たときに最初に思ったのが、あっ、ここだったら遠隔心臓リハビリテーションができそうだなと。でも、そのノウハウを全く知らないので、今勉強しています。できることを増やしていって、法人全体のいろんなものを伸ばしていければと思っています。そのうちの１つが遠隔リハビリテーションかなと。心臓だけでなく、心臓以外のところから始めてもいいと思いますし。

亀田：ウェルネスセンター中央では管理用のデータがとれます。だから一人一人に応じたリハビリというのが可能な施設だなと。そういうのをうまく使っていけば。リハビリが集団から個別な形のリハ、それこそネットを使ったものも出てくるのではないか。それだけの素地があると思う。夢は大きく。立石先生に来ていただいて、循環器がリハや訪問診療の中でもっと充実していくのかなと思いながら、夢と希望を抱いてます。

看護部長：是非タッグを組んで、これからの青藍会を盛り上げていっていただけたらと思います。

おうちdeリハビリ 25

ハートクリニック新山口
作業療法士

日々の生活の中で、健康維持のため・今よりちょっと良くなるため・過ごしやすくなるためのアドバイスをリハビリ専門職員がお伝えするコーナーです。

体操を動画でも紹介しています。
QRコードを読み取ってご覧ください。

今回のテーマ　からだの土台を整えましょう

昔の子供たちは外遊びが中心で、大人に怒られるまで外で遊んでいた時代がありました。それが今は、外では遊べるところが少なくなり、家の中でもできる遊び（テレビゲームなど）が充実することで、身体を動かして遊ぶ経験が少なくなっています。特に、ここ３年で子供たちの体力は更に減少傾向にあり、身体の発達自体も遅れてきていると言われています。

文部科学省によると、通級指導を受けている子供は年々増加し、1993年から2019年にかけての26年間で約10倍に増えていることが報告されています。自分の身体を自分の思った通りに使えるかどうかは、小学生入学以降の読み書き、計算の学習、対人関係の構築などに大きな影響を与えます。どのような遊びでも構いませんので、鬼ごっこ、ボール遊び、ブランコ、ジャングルジム、五感すべてを駆使してしっかりと身体を使って遊ぶことが、子供の発達においてはとても重要です。

今日は、その身体の動きの基礎を作る体操を２つお伝えします。

■仰向けに寝転んでゆらゆら

仰向けに寝転んだお子様の踵を下から支え、左右にゆっくりと細かく揺らします。踵を持つ際、指に力が入ってしまうと痛みを感じてしまう事もあるため、手のひらで支えるようにしましょう。

■うつ伏せでゆらゆら

うつ伏せになったお子様の傍に座ります。大人の手の指の付け根を、お子様の背骨に添わせるように乗せて、優しくゆらゆらと揺らします。

※子供の身体は柔らかく繊細です。豆腐を扱うくらいの気持ちで触れるようにしてください。筋肉は圧を加えれば加えるほど、反発して硬くなります。今回の記事は、身体を緩めて土台を作ることが目的です。そのため、優しく触れることを意識してください。

背骨と骨盤を優しく揺らす感覚が入ることで、筋肉が緩み、身体の左右の動作を切り替えやすくなります。更に、身体の軸ができるため、両手や両足を別々に使う活動が行いやすくなったり、姿勢やバランスが安定しやすくなったりします。

また、親子で触れ合う時間を取ることで、「愛情ホルモン」とも呼ばれるオキシトシンというホルモンが分泌されます。オキシトシンは不安やストレスを抑制したり、幸福感を高めたりする効果があるといわれています。自律神経の働きが整うため、就寝前に行う事で、眠りの質が良くなることもあります。お子様の日々のケアに、是非この体操を取り入れてみてください。

2023年12月
健康づくり講座カレンダー

問い合わせ先
青藍会在宅医療支援センター
0120 (2) 81056
担当：藤本

講師募集中
健康づくり講座では、多くの方に利用していただくために、色々な講座を検討しています。
ご自分で講座を開設したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、0120（2）81056 担当：藤本までご連絡ください。
☆壁や冷蔵庫に貼ってお使いください

《講座対象者》
- 高齢者
- 子ども
- どなたでも

例）
右上の○の中の数字は定員
↓
13:00〜15:00 オレンジカフェ白石 ⑤ 認知症サポート

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					8:30〜18:00 もの忘れ外来 あんの循環器内科 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	8:30〜12:30 もの忘れ外来 あんの循環器内科 9:00〜12:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 13:00〜14:30 はつらつクラブ ハートクリニック南山口
3	4	5	6	7	8	9
	10:00〜11:00 健康相談 ハートホーム山口 14:00〜15:00 健康相談 ハートホーム山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	14:00〜16:00 健康麻雀 ハートホーム山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00〜13:00 はあとこども広場 はあと保育園新山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00〜13:00 はあとこども広場 はあと保育園中央	8:30〜18:00 もの忘れ外来 あんの循環器内科 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	8:30〜12:30 もの忘れ外来 あんの循環器内科 8:30〜12:30 もの忘れ外来 川井医師 あんの循環器内科 9:00〜12:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 10:00〜11:00 年賀状を作ろう ⑩ はあと保育園中央 14:00〜15:00 腰痛体操 ⑮ はあとカフェ南山口
10	11	12	13	14	15	16
ハートクリニック南山口 休日当番 9:00〜18:00	10:00〜11:00 福祉相談 ハートホーム山口 14:00〜15:00 福祉相談 ハートホーム山口 14:00〜17:00 介護相談 ハートホーム南山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	14:00〜16:00 健康麻雀 ハートホーム山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00〜13:00 はあとこども広場 はあと保育園新山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00〜13:00 はあとこども広場 はあと保育園中央 14:00〜15:00 リハビリ健康体操 ハートホーム山口 14:00〜15:00 ボランティア交流会⑮ はあとカフェ小郡	8:30〜18:00 もの忘れ外来 あんの循環器内科 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	8:30〜12:30 もの忘れ外来 あんの循環器内科 9:00〜12:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 13:00〜15:00 オレンジカフェ白石⑤ 認知症サポート
17	18	19	20	21	22	23
	10:00〜11:00 子育て相談 はあと保育園新山口 14:00〜15:00 子育て相談 はあと保育園新山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	14:00〜16:00 健康麻雀 ハートホーム山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00〜13:00 はあとこども広場 はあと保育園新山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 14:00〜15:30 弁護士相談 ハートホーム山口	10:00〜13:00 はあとこども広場 はあと保育園中央	8:30〜18:00 もの忘れ外来 あんの循環器内科 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 14:00〜15:00 感染症対策 ⑮ はあとカフェ大歳 15:40〜16:30 手話を学ぼう ⑮ はあとカフェ宮野	8:30〜12:30 もの忘れ外来 あんの循環器内科 9:00〜12:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 9:00〜12:30 介護相談 ハートホーム南山口 10:00〜11:00 疼痛コントロール ⑳ はあとカフェ山口 10:00〜11:00 クリスマスクッキング ⑩ はあと保育園吉敷 10:00〜11:00 クリスマスリースを作ろう⑩ はあと保育園新山口
24	25	26	27	28	29	30
	10:00〜11:00 健康相談 ハートホーム山口 14:00〜15:00 健康相談 ハートホーム山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	14:00〜16:00 健康麻雀 ハートホーム山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00〜13:00 はあとこども広場 はあと保育園新山口 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00〜13:00 はあとこども広場 はあと保育園中央 14:00〜15:00 リハビリ健康体操 ハートホーム山口	8:30〜18:00 もの忘れ外来 あんの循環器内科 14:00〜17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	おごおり薬局 休祝日当番薬局 8:30〜18:00
31	年末年始のお休み　12/30（土）〜1/3（水）					

利用について
- 講座に参加を希望される方は、問い合わせ先までお申し込みください。
- 講座によっては、定員に達している場合がありますので、ご了承ください。
- 日・祝日は休館となっております。
- 諸事情により予定が変更になることがあります。

2024年１月
健康づくり講座カレンダー

問い合わせ先
青藍会在宅医療支援センター
0120（2）81056
担当：藤本

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	年末年始の休み 12/30（土） ～1/3（水）	ハートクリニック南山口 休日当番 9:00～18:00		10:00～13:00 はあとこども広場 はあと保育園中央	8:30～18:00 もの忘れ外来 あんの循環器内科 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	8:30～12:30 もの忘れ外来 あんの循環器内科 9:00～12:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 13:00～14:30 はつらつクラブ ハートクリニック南山口
7	8	9	10	11	12	13
あんの循環器内科 休日当番 8:30～17:30	成人の日	14:00～16:00 健康麻雀 ハートホーム山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00～13:00 はあとこども広場 はあと保育園新山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 14:00～15:30 弁護士相談 ハートホーム山口	10:00～13:00 はあとこども広場 はあと保育園中央 14:00～15:00 リハビリ健康体操 ハートホーム山口	8:30～18:00 もの忘れ外来 あんの循環器内科 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	8:30～12:30 もの忘れ外来 あんの循環器内科 8:30～12:30 もの忘れ外来 川井医師 あんの循環器内科 9:00～12:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 14:00～15:00 春に向けたカラダ作り⑮ はあとカフェ南山口
14	15	16	17	18	19	20
	10:00～11:00 健康相談 ハートホーム山口 14:00～15:00 健康相談 ハートホーム山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	14:00～16:00 健康麻雀 ハートホーム山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00～13:00 はあとこども広場 はあと保育園新山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00～13:00 はあとこども広場 はあと保育園中央	8:30～18:00 もの忘れ外来 あんの循環器内科 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	8:30～12:30 もの忘れ外来 あんの循環器内科 9:00～12:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 10:00～11:00 のり巻きを作ろう⑩ はあと保育園中央 10:00～11:30 Work café:ビジネスマナー⑩ ハートホーム新山口 13:00～15:00 オレンジカフェ白石⑤ 認知症サポート 14:00～15:00 新年会⑮ はあとカフェ新山口
21	22	23	24	25	26	27
	10:00～11:00 福祉相談 ハートホーム山口 14:00～15:00 福祉相談 ハートホーム山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	14:00～16:00 健康麻雀 ハートホーム山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00～13:00 はあとこども広場 はあと保育園新山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00～13:00 はあとこども広場 はあと保育園中央	8:30～18:00 もの忘れ外来 あんの循環器内科 14:00～15:00 レッドコード体験会 ⑮ はあとカフェ平川 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 15:30～16:30 ストレッチ教室⑮ はあとカフェ宮野	8:30～12:30 もの忘れ外来 あんの循環器内科 9:00～12:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口 9:00～12:30 介護相談 ハートホーム南山口 10:00～11:00 介護保険について⑳ はあとカフェ山口 10:00～11:00 鬼のお面を作ろう⑩ はあと保育園新山口 10:30～11:30 のり巻きを作ろう⑮ はあと保育園吉敷
26	27	28	29	30	31	
	10:00～11:00 子育て相談 はあと保育園新山口 14:00～15:00 子育て相談 はあと保育園新山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	14:00～16:00 健康麻雀 ハートホーム山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00～13:00 はあとこども広場 はあと保育園新山口 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	10:00～13:00 はあとこども広場 はあと保育園中央 14:00～15:00 リハビリ健康体操 ハートホーム山口	8:30～18:00 もの忘れ外来 あんの循環器内科 14:00～17:30 もの忘れ外来 ハートクリニック南山口	

《講座対象者》
- 高齢者
- 子ども
- どなたでも

例）右上の○の中の数字は定員
13:00～15:00 オレンジカフェ白石 ⑤ 認知症サポート

【青藍会グループ　医師紹介】

あんの循環器内科

外来

理事長　阿武 義人
日本循環器学会専門医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医
日本医師会認定健康スポーツ医
THP健康測定研修修了医
介護支援専門員
認知症サポート医
緩和ケア研修会受講修了

外来　訪問

院長　亀田 秀樹
日本脳神経外科学会専門医
日本認知症学会専門医・指導医、認知症サポート医
やまぐちPREMIUMオレンジドクター

外来　訪問

福谷 敏彦
日本外科学会認定医
麻酔科標榜医
麻酔科学会認定医・専門医

外来　訪問

藤谷 薫
日本外科学会認定医
日本医師会認定産業医
日本医師会認定スポーツ医

外来

名西 史夫
日本内科学会認定内科医
日本腎臓学会専門医
日本透析医学会専門医
日本医師会認定産業医

訪問

萬納寺 洋道
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医

外来

宮川 一平
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本内科学会指導医
日本リウマチ学会専門医
日本リウマチ学会評議員

外来

川井 元晴
元山口大学医学部教授
日本認知症学会認定専門医
日本神経学会認定神経内科専門医

訪問

中村 幸生
日本眼科学会認定専門医

訪問

田代 葵子
眼科

訪問

井原 成男
整形外科

訪問

倉員 忠弘
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本医師会認定産業医

訪問

原口 祐子
日本皮膚科学会専門医

訪問

山田 真理子
皮膚科

訪問

大宅 裕之
形成外科

訪問

川野 多加子
歯科

訪問

藤本 勝廣
歯科

ハートクリニック南山口

外来　訪問

院長　松村 孝司
日本脳神経外科学会専門医
介護支援専門員

外来　訪問

副院長　立石 裕樹
日本内科学会認定内科医
日本循環器学会循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医
日本心臓リハビリテーション学会
心臓リハビリテーション指導士

外来　訪問

村田 和弘
日本リハビリテーション医学会指導医・専門医・臨床認定医
日本プライマリ・ケア連合学会指導医・家庭医療専門医
日本臨床栄養代謝学会認定医
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士
日本嚥下医学会嚥下相談医

外来

米澤 眞子
循環器

外来

小室 あゆみ
循環器

ハートクリニック新山口

外来　訪問

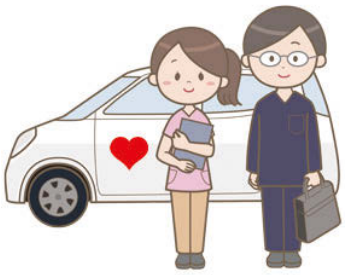
院長　向江 徳太郎
日本小児科学会小児科専門医
日本救急医学会救急科専門医

外来

友近 喜代子
小児・発達外来

外来

岡　桃子
日本小児科学会小児科専門医
日本小児神経学会小児神経専門医



【2023年12月　外来・訪問診療医師予定表】

			診療科	月	火	水	木	金	土
外来	あんの循環器内科	午前	循環器内科	阿武 義人	阿武 義人	阿武 義人		阿武 義人	山大医師
			脳神経外科（もの忘れ外来）		亀田 秀樹				亀田 秀樹
			内科	藤谷 薫	藤谷 薫	藤谷 薫	藤谷 薫	藤谷 薫	藤谷 薫
			総合内科	福谷 敏彦			名西 史夫		宮川 一平
		午後	循環器内科	阿武 義人	阿武 義人	阿武 義人		阿武 義人	
			脳神経外科（もの忘れ外来）					亀田 秀樹	
			内科	藤谷 薫	藤谷 薫	藤谷 薫		藤谷 薫	
	新山口	午前	小児科	向江 徳太郎	向江 徳太郎	向江 徳太郎	向江 徳太郎	向江 徳太郎	
			発達相談外来	友近 喜代子		友近 喜代子		岡 桃子	
		午後	小児科	向江 徳太郎	向江 徳太郎	向江 徳太郎	向江 徳太郎	向江 徳太郎	
			発達相談外来	友近 喜代子				岡 桃子	
	南山口	午前	脳神経外科（もの忘れ外来）	松村 孝司	松村 孝司	松村 孝司	松村 孝司	松村 孝司	松村 孝司
			循環器・内科	米澤 眞子	立石 裕樹		立石 裕樹	小室 あゆみ	立石 裕樹
			リハビリテーション内科	村田 和弘		村田 和弘		村田 和弘	村田 和弘
		午後	脳神経外科（もの忘れ外来）	松村 孝司	松村 孝司	松村 孝司		松村 孝司	
			循環器・内科	立石 裕樹	立石 裕樹			立石 裕樹	
			リハビリテーション内科	村田 和弘		村田 和弘			
訪問	脳神経外科 総合内科			亀田 秀樹	亀田 秀樹	亀田 秀樹	亀田 秀樹	亀田 秀樹	
				福谷 敏彦	福谷 敏彦	福谷 敏彦	福谷 敏彦	福谷 敏彦	
				萬納寺 洋道		萬納寺 洋道		萬納寺 洋道	
								松村 孝司	
				立石 裕樹		立石 裕樹		立石 裕樹	
					村田 和弘	村田 和弘		村田 和弘	村田 和弘
	眼科			中村 幸生	中村 幸生	中村 幸生	中村 幸生	田代 葵子	
	整形外科				倉員 忠弘	井原 成男		井原 成男	
	皮膚科				原口 祐子	山田 真理子			
	形成外科			大宅 裕之					
	小児科			向江 徳太郎	向江 徳太郎	向江 徳太郎	向江 徳太郎	向江 徳太郎	
	歯科			川野 多加子	川野 多加子	川野 多加子	川野 多加子	川野 多加子	
				藤本 勝廣	藤本 勝廣	藤本 勝廣	藤本 勝廣	藤本 勝廣	
	訪問薬剤指導			○	○	○	○	○	○
	訪問栄養指導			○	○	○	○	○	○
	訪問リハビリ			○	○	○	○	○	○

山口エリア

■あんの循環器内科　T083(924)1151　■ハートクリニック新山口　T083(976)2450　■ハートクリニック南山口　T083(988)3333
■おごおり薬局　T083(974)1660　■メディキッズ山口　T083(941)5311　■メディキッズ新山口　T083(976)2450
■青藍会在宅医療支援センター山口　訪問看護ステーション　T 083（933）6020
■青藍会在宅医療支援センター山口　定期巡回・随時対応型訪問介護看護　T 083（934）7600
■青藍会在宅医療支援センター新山口　訪問看護ステーション　T 083（976）2400
■青藍会在宅医療支援センター新山口　定期巡回・随時対応型訪問介護看護　T 083（976）2400
■青藍会在宅医療支援センター新山口　看護小規模多機能型居宅介護　T 083（976）2400
■青藍会在宅医療支援センター南山口　訪問看護ステーション　T 083（988）3300
■青藍会在宅医療支援センター南山口　看護小規模多機能型居宅介護　T 083（988）3300

東京エリア

■青藍会在宅医療支援センターハートハウス成城　定期巡回・随時対応型訪問介護看護　T 03（3416）4160

理念：私たちは、医療・保健・福祉の分野で、地域の方々の生活を生涯に渡って支えることに最善を尽くし、そして、そこで働いていることに誇りを持ちます。

※コンプライアンス部：この広報誌の写真は、ご本人に承諾を得た上で掲載しております。翻訳・引用・要約・開示・配布・書籍等への転載等を禁止します。

青藍会グループ広報誌　発行人／阿武義人　編集／広報課
2023年12月1日発行　第292号
〒753-0813 山口市吉敷中東1-1-1
T083(933)6000(代表)
印刷製本／株式会社マルニ